

片山 友子

東京都立大学社会科学部研究科社会福祉専攻 修士課程

痴呆性高齢者グループホーム（GH）における重介護を可能とする要件

本研究は、認知症高齢者グループホームにおける居住継続をテーマに、今後さらに増大するであろう身体的介護の重度化への対応に焦点を当てている。主な研究方法は、グループホーム管理者を中心としたヒアリング調査と全国のグループホームから無作為抽出した2000事業所に対するアンケート郵送調査である（有効回答率 41.8%）。今回の調査は、「常時車椅子利用の方や寝たきりの方」が、1ユニットあたり平均 1.7 人という現状での対応調査であったためか、重介護への対応と関連する項目は、グループホーム内で調整されるものが中心となった。一定の要件までは本研究では得られなかったものの、身体的重介護への対応と関連する項目について、運営主体・ユニット数・管理者をフロアシフトから減らし、フリーに動ける日を増やす・研修や勉強会、管理者からの指導によってスタッフの介護技術の向上をはかる・スタッフに対してグループホームケアについて研修や指導を行う・定期往診以外の往診対応がある・人員配置基準を厚くすることへの希望がある・管理者のグループホームでの対応に関する考え方・管理者のユニット分けに関する考え方といった項目が挙げられた。また、今後はグループホーム内外を併せたケアの支え手、ユニットケアのバランス調整に注目する必要があることもわかった。